

令和3年度第1回
千葉市社会福祉審議会高齢者福祉・介護保険専門分科会
あんしんケアセンター等運営部会議事録

- 1 日 時 令和3年6月2日(水) 午後7時～午後8時
- 2 場 所 千葉市中央コミュニティセンター8階 千鳥・海鷗
- 3 出席者 (委 員) 伊藤雄介、合江みゆき、近藤みつる、雑賀匡史、竹川幸夫、太齋寛、
谷村夏子、西尾孝司、原田克己、松崎泰子、渡辺尚子 (敬称略)
(委員14名のうち11名出席)
(事務局) 富田健康福祉部長、佐藤高齢障害部長、前嶋地域包括ケア推進課長、
清田高齢福祉課長、藤原介護保険管理課長、三枝介護保険事業課長、
三橋地域包括ケア推進課長補佐、他7名
- 4 議 題
 - (1) 介護予防支援事業等の委託について
 - (2) 令和2年度千葉市あんしんケアセンター運営事業実績について
- 5 議事の概要
 - (1) 介護予防支援事業等の委託について
事務局より資料に基づき説明を行い、質疑応答を行った。
 - (2) 令和2年度千葉市あんしんケアセンター運営事業実績について
事務局より資料に基づき説明を行い、質疑応答を行った。

6 会議経過

松崎部会長	部会長が議長となり議事を進行した。 ～議題1 公開議事～ 介護予防支援事業等の委託について (前嶋地域包括ケア推進課長より、議題1 介護予防支援事業等の委託について説明を行った。) 議題1 についての質疑応答 議題1 に関しましてご意見等、ございませんでしょうか。 (質問、意見等なし)
松崎部会長	それでは、議題1 につきまして、承認とさせていただきます。 以上で、議題1 を終わりたいと思います。 ～議題2 公開議事～ 令和2年度千葉市あんしんケアセンター運営事業実績について (前嶋地域包括ケア推進課長より、議題2 令和2年度千葉市あんしんケアセンター運営事業実績について説明を行った。) 議題2 についての質疑応答
松崎部会長	あんしんケアセンターの実績を、全体的に総括してまとめてもらったことにより、令和2年度の問題点が浮かび上がってきたように思われます。 事務局からの報告につきまして、ご意見やご質問はございませんでしょうか。
太齋委員	まず、総合相談事業の実績についてですが、平成30年度から令和元年度の相談件数の上昇率と比べて令和元年度から令和2年度は伸びが少なくなっています。権利擁護については、事務局からのご報告にもあったとおり、コロナ禍の中で、あんしんケアセンターを含め、市が頑張って取り組まれた成果、かつ、虐待等の状況を早めに察知して色々と取り組まれた成果なのかと思い、すごく評価できる取り組みではないかと思います。 次に、あんしんケアセンターからの運営事業計画・実績報告シートにおける各センターの自己評価についての質問となります。全体的な印象として、Zoom 等の

	オンライン化を進めた項目にはA・Bと良い評価をつけ、それ以外はCをつけている、というように感じました。取り組み状況に目を通すと、オンライン化を進めていなくても、しっかりと取り組んでいるセンターもあり、自己評価の基準が曖昧な印象を受けました。評価については、各センターの主観なのか、または、市で示している基準のようなものはあるのでしょうか。
前嶋地域包括ケア推進課長	自己評価基準については、客観的な数値化等の評価は難しく、基準を示せてはいませんが、各センターから提出された実績については、具体的な取り組み状況等を個別に確認・把握を行っています。また、他のセンターへ好影響を与えられる取り組み等の有益なものは、実績報告の総括（資料2-2）においても報告を行っております。 当課としても、各あんしんケアセンターの自己評価については、ある程度の統一化は必要かと思い、検討・改善の必要性を感じておりますので、ご意見をいただければと思います。
松崎部会長	私も令和2年度においては、例年以上にばらつきが多かったように感じます。そういう意味では、様々な努力をしているセンターが多いと思いましたが、計画した取り組みができなかったということで、CやDの評価となっているのかと思います。 総合相談事業実績の虐待相談件数については、いかがでしょうか。様々な連携の中で、早期対応ができたとみてよろしいでしょうか。
前嶋地域包括ケア推進課長	権利擁護関連については、市営・県営団地やURのある圏域で相談が多い傾向がみられます。虐待については、あんしんケアセンターによる普及啓発やあんしんケアセンターと各区高齢障害支援課との連携がスムーズになってきたことによる成果ではないかと考えております。補足として、あんしんケアセンターから高齢障害支援課への相談件数についても、増加傾向はみられず、あんしんケアセンターのスキル向上や周知の成果ではないかと捉えております。
松崎部会長	その他に何かご意見やご質問はございませんでしょうか。
渡辺委員	地域ケア会議及び各種会議の開催について（資料2-1 5, 6）、コロナ禍において開催回数の減少はありますが、後半はオンラインを活用する等の工夫をされていたということはお聞きしています。しかしながら、地域ケア会議等は顔の見える関係を大事にした横のつながりの会議であると考えています。地域ケア会議の48.2%の減少による影響についてはどのような評価をされているのでしょうか。

前嶋地域包括ケア推進課長	会議開催数の減少が、この１年だけでなく、今年度も続くとなると、意識して活動をしないと、これまでの顔の見える関係の維持が難しいかもしれません。当課やあんしんケアセンターも問題意識を持っており、今年度については、積極的な開催は難しいかもしれませんが、ワクチン接種等が進んできた段階で、工夫しながら取り組んでいきたいです。
渡辺委員	ありがとうございます。看護協会も訪問看護ステーションを持っていますが、そのステーションの利用者に関して、こういった会議の減少により、昨年度前半においては、なかなかつながりを持てなかった影響がありました。事務局の回答のように、こういった機会に新たな方法も今後作り出していくしかないのかなあと痛感しました。今後にぜひ期待したいと思います。
富田健康福祉部長	看護協会の皆様には、いち早くオンラインでの対応等を取り入れていただき、また、私どももご指導いただいた経緯もございますので、大変ありがたく思っております。 地域ケア会議の実績における、「個別課題の解決」については、「地域づくり・地域課題の発見・ネットワーク構築等」と比べると減少幅を少なく保っています。これは、個別の支援に関して緊急を要する会議であることが多く、関係者がなんとか工夫した実績であると考えております。「地域づくり・地域課題の発見・ネットワーク構築等」については、地域住民の方が参加されることも多く、当初、自治会長や民生委員等の方々にオンライン等で参加いただくことが難しかったこともあり、開催数の減少につながってしまいました。関係者の皆様も危機感を抱いていることと思いますので、色々な手法を取りながら意見交換ができるように努めていきたいと思っております。
松崎部会長	昨年度の実績については、ＩＣＴの使い方であったり、色々な工夫や努力、また、慣れ等もあり、前半と後半で大きく違っているように感じました。また、全てを中止にしたのではないということ、開催に際して地域の方々には不安があるのも確かであり、安全対策が万全であってもなかなか人が集まらないということもわかりました。 それでは、以上で本日の審議を終わりたいと思います。 ～ 終 了 ～